

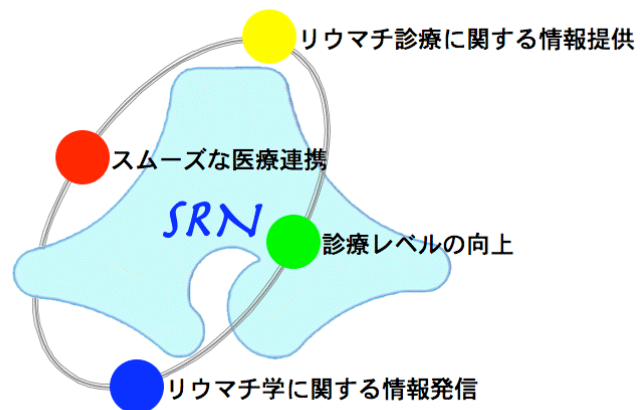
西部地区リウマチ講演と療養相談会

平成19年9月9日

今回の会は、浜松医科大学第三内科の小川法良先生による「新しいリウマチ診療システム～静岡リウマチネットワーク～」の講演と、小川法良先生、浜松医科大学整形外科の影山康徳先生、常葉学園医療専門学校理学療法学科の山本武先生による療養相談会が開かれました。主催のリウマチ友の会静岡支部によるとこの日の出席者は約100名であり、ほぼ半数が友の会会員、残りが一般の方ということでした。

小川法良先生の講演は、8年間に渡る石川県でのリウマチ診療の経験を踏まえ、静岡県は医師や病院などの医療資源や交通事情に恵まれているにも拘らず、それらが十分有効に機能していないのではないかと認識より、新しいリウマチ診療システムである静岡リウマチネットワーク設立に至った経緯をわかりやすく、ときにユーモアを交えて講演されました。

静岡リウマチネットワークの4つの目標



静岡リウマチネットワークは大きく4つの柱からなるようです。第一の柱は、リウマチ診療に関する情報の提供でこの特徴は整理された情報が正確かつ容易に手に入ることにあります。第二の柱は、スムーズな医療連携の達成。統一した情報提供フォームを使用し、紹介および逆紹介基準の設定などが考えられています。第三の柱は、診療レベルの向上。既存の研究会、学会とは異なり、より身近な症例検討会、学術講演会、セミナーを企画します。第四の柱は、静岡県からのリウマチ学に関する情報発信。静岡県全体をネットワーク化することができれば、そこから得られる医学的な知見はおそらく日本でも最大級のものとなり、高い信頼性が得られます。最後に、このネットワークの裾野ができるだけ広がるように、患者さんから主治医の先生にネットワークへの参加を促して欲しいとの希望が伝えられました。

その後は15名の方の療養相談が行われました。主催者のリウマチ友の会の意向で個別の相談ではなく、出席者全員の前で相談事項を読み上げ、それに対し3人の専門家が意見を述べる形式で進められました。内容は内科的治療に関する質問、手術に関する質問、転院に関する質問、リハビリテーションに関する質問など多岐に渡りました。3人の専門家は黒板に絵を描いたり、壇上で実際のリハビリ体操をしてみせたりして、わかりやすく回答を行い、聴衆はメモを取ったり、追加の質問をしたりして有意義なものであったようです。